

平和を作り出す

小泉さんが仕掛けた郵政民営化選挙のフィーバーで、与党が大幅に議席を伸ばしました。その後安倍さんが首相の座につきました。彼は郵政選挙圧勝の遺産を使って、教育基本法を改正し、国民投票法案を通しました。さらに集団的自衛権を認める方向を打ち出し、憲法改正を推し進めると高言しています。これほどの大事についてのお墨付きを彼に与えたつもりはないのに、です。そんな中で今年も平和の問題を考える夏がやってきました。

聖書の中に「平和を実現する人は幸いである。」という言葉があります。マタイによる福音書5章9節です。(以前使っていた口語訳では「平和を作り出す人は幸いである。」となっていました。ここではこの訳の方を使わせていただきます。)普通は「平和を守る」と言います。それに比べて「平和を作り出す」というのは、積極的な感じがして興味深い表現です。平和は守るものでなく、もっと能動的に作り出すものだということです。

与党が進めている憲法改正の主なポイントは9条を変えることです。憲法第9条は以下のようになっています。

第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2 前項の目的を達成するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

ここには積極的決断があります。平和を希求するからこそ、武力に頼らず生きていこうとする決断です。武力・戦力を放棄するという、能動的な決断です。ここに「平和を作り出す」に通じるものを感じるのです。

9条はおよそ非現実的で幻想に過ぎない。自分の国が攻められたら、やられるままでいいののか。また(本当にそのような暖かい善意なのか怪しい気がしますが)自分の国を守ってくれる国が攻められたら、手をこまぬいて見ていていいののか。このような非難が憲法9条に対して浴びせ掛けられています。けれども自分の国を守るのに十分安心で、しかも他国を脅かしたりしない武力などあるのでしょうか。その方が幻想のように思います。まして他国が利害抜きで本気で守ってくれると思うほうが非現実的です。

もし相手がやってきてもやられないようにと、牙を研いで身構えているとどうなるか。相手はもっと牙を剥いてやってくる。これは子どもの世界の常識です。やられないためにこのような用意をすることは、平和を作り出すことになりません。むしろそれとは逆の結果を招く方向に向かうことになるのです。また強そうな子を探してその子分になると安心か。そうではありません。一人であることが怖くなり、さらに強い子の顔色をうかがう惨めさを味わう結果になります。湾岸戦争やイラク戦争の日本となにか共通するものを感じます。

武力によらずに平和を作り出す方法はなにか。国際社会の中でそれを考え、それを訴え、それを進めようとするのがわたしたちの国のあり方であり、この国の指導者の役割だと考えるのです。子ども同士が仲良しになるには、一緒に楽しく遊ぶに限る。これも幼稚園の常識です。軍靴の響きがとどろく轟町であったこの地に、平和を求めて建てられた愛隣です。私たちは戦争しない国、戦争を必要としない世界を求めます。それは消極的・受動的でなく、積極的・能動的な方向です。そのためにどの道を選び取るか。そのことが問われつつあります。